

男女 共同参画 の視点

言葉で学ぼう 男女共同参画

平成22年5月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の中で、今一つ理解度が低かった男女共同参画に関わるカタカナ言葉の意味をまとめました。言葉から男女共同参画を学んでみましょう。

《ワーク・ライフ・バランス》

一人一人が、仕事と仕事以外の生活(家庭生活、地域生活など)を上手に組み合わせ、自らが希望するバランスで生活を送れるようにすることです。

《ポジティブ・アクション》

企業や事業所などが、男女平等な社会環境が可能となるように積極的な改善に取り組み、必要な範囲内で、男女のいずれか一方に対し、機会を提供することです。企業や事業所などの理解や取り組みが必要です。



《エンパワーメント》

「力をつけること」の意味です。男女共同参画では、特に女性が政治・経済・社会・家庭などあらゆる分野で、自分たちのことは自分で決め、行動できるような能力をつけることを意味しています。

3つの言葉の意味が理解いただけただけでしょうか。関係ない言葉と捉えず、意識を傾けて現在の生活や職場環境などを見つめてみてください。

※くわしくは企画政策課(☎20-1500)へ。

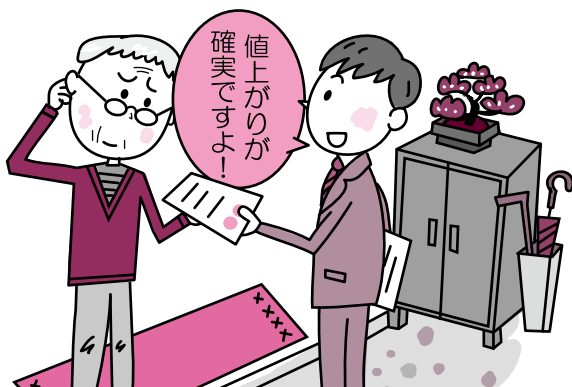
消費生活 相談

Q&A

狙われている？ 老後の資金

Q 最近、高齢者を狙った金融商品の被害が多発していると聞きました。どのような内容でしょうか。

A 商品としては社債や未公開株、ファンド型投資商品などが挙げられます。主な手口としては、電話勧誘や訪問販売で、将来の値動きが不確実な取り引きにもかかわらず、「値上がり確実」「もうかる」「元本保証」などと断定的な言



葉を使って勧誘します。また、商品の内容が容易に理解できない取り引きを次々と契約することが多いため、被害額も高額になりがちです。

そのほか、勧誘前後に別の業者を名乗るところから「〇〇社の社債(未公開株)を購入すれば高値で買い取る」と消費者をあおって契約させる場合や、過去に未公開株の被害に遭った消費者に「過去の未公開株を買い取る代わりに、別の社債(未公開株)を買ってもらおう」と契約させる二次被害のケースも見られます。最近ではイラクやスーダンなど、日本では換金性に乏しい外国通貨の購入を迫り、「高く買い取る」と言って契約させるなど、手口が多様化しています。

これらの高齢者の契約トラブルは、既に代金を支払ってしまうケースが多く、一度支払ってしまった代金を取り戻すことは困難であり、業者と連絡が取れなくなる場合もあります。

トラブルに遭わないために

- 少しでも不審に思ったり、理解できない投資話は、きっぱり断りましょう
- 説明を聞いてすぐにお金を払ったり、契約書にサインをしない。契約する前に家族や友人などに相談するなど、時間を置いてよく考えましょう
- 高齢者の契約トラブルを未然に防ぐには、周囲の人々の見守りが大切です。高齢者と連絡を取るようにし、疑問を持った場合は消費生活センターに相談しましょう

※くわしくは消費生活センター(☎23-1161)へ。